

### (3) ブランディングの取組

目白の杜のキャンパスに全ての学部・学科が設置されているワンキャンパスの利点を活かし、文系学部と理系学部の連携による全学的な研究体制を構築して、超高齢社会の未来に対応可能な社会基盤の整備に向けた提言を行っていく。さらには、「健康寿命」の問題から「生きる」ことの意味まで幅広く問う〈生命社会学〉という、今までの大学にはない新たな学際領域の創成も目指す。これらは、「**フロント科学の成果をいち早く取り入れ、そこから生じる新たな恩恵と社会的諸問題を予測し、文理連携による統合的議論に基づく研究成果を、できるだけ早く社会に還元する**」という研究スタイルの確立によって初めて可能となるものである。この研究スタイルをブランド化したいと考えている。

また、具体的な研究成果については、関係学会や研究論文で発表することはもとより、一般市民が参加可能な各種シンポジウムの開催や大学ホームページなどを通じて広く公表する。これまでも理学部生命科学科・自然科学研究科生命科学専攻では、「生命科学シンポジウム」を年2回開催し、生命科学系のフロント研究の成果を一般の方々や近隣の中高生に積極的に伝えるなど、広報・啓蒙活動を続けてきており、一定の成果を挙げてきた。本事業においては、ブランド化を目指している「文理連携による統合的議論に基づく研究」の成果として、生命科学・人文科学・社会科学・健康科学の各分野の専門家だけでなく、一般市民の方々などとも活発な議論を深めていく。

なお、本事業で整備した研究推進体制を活かし、これまで以上に横断的かつ一体感のある全学的研究活動の推進を目指す。また、若手研究者を積極的に採用することにより、次世代の意見を研究成果として反映する仕組みの導入を創出し、慶應義塾大学医学部との連携によって、医療分野との情報交流を強化することも計画している。

以上のような全学的な研究体制の整備・推進により新たに創出される学問潮流・研究成果を生かし、例えば広義のサステイナビリティを複眼的に捉えるような学際的授業科目の開設などの教育活動に繋げることも視野に入れている。